

本調子 十九の春 尺=尺

1 くりかえし

合合乙 老 四 ○工四 上 四 //

2 合 四 合 四 合上中 中上四 合 工 合五工 合

わたしが	あなた	にい	ほれた	のおは
もとの	じゅうく	にい	するな	らあば
みすて	ごころ	があ	あるな	らあば
いっせん	にせん	のお	はがき	さあえ
ぬしさん	ぬしさん	とお	よんだ	とおて
おくやま	ずまい	のお	ウグイ	スうは

3 工 七五工 合 四 合 四 合上中 工 合 中中上

ちょうど	じゅうく	のお	はるで
にわの	かれきを	をを	みてご
はやく	おしらせ	え	くださ
せんり	ばんり	とお	たびを
ぬしさんに	りっぱ	なあ	かたが
うめの	こえだ	でえ	ひるね

1, わたしがあなたに惚れたのは ちょうど十九の春でした
いまさら離縁と言うならば もとの十九にしておくれ

2 もとの十九にするならば 庭の枯れ木を見てごらん
枯れ木に花が咲いたなら 十九にするのもやすけれど

3, 見捨て心があるならば 早くお知らせくださいね
年も若くあるうちに 思い残すな明日の花

4, 一銭二銭の葉書さえ 千里万里と旅をする
同じコザ市に住みながら 会えぬ我が身のせつなさよ

5, 主さん主さんと呼んだとて 主さんにや立派な方がある
いくら主さんと呼んだとて 一生忘れぬ片思い

6, 奥山住まいのウグイスは 梅の小枝で昼寝して
春が来るよな夢を見て ホケキョホケキョと鳴っていた